令和3年 新年のごあいさつ

見附市長
久住（くすみ）　時男（ときお）

新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、世界中が新型コロナウイルス感染症で大変な苦難にさらされました。見附でも感染者が確認されましたが、市民の皆様のご協力もあり、大きな感染拡大には至っておりません。市民の皆様に改めて感謝申し上げるとともに、感染の第3波における感染防止に引き続きご協力をお願いします。

今後は、ウイルスとの共存が前提の「ウィズコロナ」の時代に入ってきます。ウィズコロナで人と人との交流が制限される場合に有効なのが、人工知能やロボット、インターネットなどのデジタルテクノロジーです。昨年実施した、県外の家族と画面越しに対話できるロボット「newme（ニューミー）」を用いた全国初の実証実験や、画面越しに参加できるオンライン健康運動教室などは、デジタルテクノロジーを活用した便利な社会「ソサエティ5.0」も見越した施策となっています。市内全域へのインターネット・Wi-Fi（ワイファイ）の普及も含め、新年も市民の皆様の暮らしが豊かになるよう、さまざまな分野でデジタル化を進めてまいります。

一方で、過度な外出自粛で社会参加を制限されると、体力や認知機能が低下する「健康二次被害」につながります。自身の健康を守るためにも、ウイルスを正しく恐れつつ、新しい生活様式を守って運動や社会参加を行う「GoToコミュニティ」が必要です。市も、スポーツ・文化イベントの再開を支援するとともに、「住んでいるだけで健康で幸せになれるまち」スマートウエルネスみつけの実現に向けて、さまざまな施策を行ってまいります。

コロナ禍では、市民生活や経済活動が大きな影響を受けました。これらの回復を後押しするために、市は国からの特別定額給付金をいち早く市民の皆様にお届けし、市民・産業界・市が「オール見附」で取り組む「つながるみつけプロジェクト」を展開しました。市民の皆様におかれましては、プレミアム付商品券や飲食店予約応援補助金などの支援策を積極的に活用し、買い物や飲食を通して市内事業者へエールをお願いいたします。

コロナ禍以外に目を向けますと、昨年はSDGs未来都市としてさらに飛躍を遂げた年でもありました。昨年から始めた「SDGsパートナー制度」には、市とともに持続可能なまちづくりに取り組む21の企業・団体にご参加いただいております。田井小学校でのモデル授業をはじめ、子どもたちがSDGsを学ぶ授業も行われるなど、SDGsの理念は確実に市内に広まっていると実感しております。

現在、今後5年間のまちづくりの基本方針となる「第5次総合計画後期基本計画」を策定中です。策定においては、先に述べました「スマートウエルネスみつけ」、「SDGs未来都市」、「ソサエティ5.0」を中心ビジョンに位置付けております。また、昨年の市民アンケートでは、「住み良い」「どちらかといえば住み良い」の回答割合が、平成5年の調査開始以降初めて90％を超えるなど高評価をいただきました。今後は3つの中心ビジョンをはじめとして、これまでのまちづくりをより発展させるために、市民の皆様とともにチャレンジしてまいります。

結びに、新型コロナウイルス感染拡大の早期収束と、新年が皆様にとりまして幸多い年であることを心よりお祈り申し上げ、新春を迎えてのごあいさつといたします。

ウィズコロナ時代を見据えて
市民の皆様とともに見附のまちづくりを推進

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
見附市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています
見附のイメージキャラクター「ミッケ」
SDGsとは
国連サミットで採択された世界共通の持続可能な開発目標の略。2019年、見附市は「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選ばれました。

見附市議会議長
重信（しげのぶ）　元子（もとこ）

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては健やかに新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、東京オリンピックも1年延期になりました。緊急事態宣言が発令されて不要不急の外出を自粛することが求められ、困惑することばかりでした。その後、感染の仕組みも少しずつ分かってきて、「マスクの着用」、「3密（密集・密接・密閉）の回避」、「手指の消毒」という新しい生活様式を守りながら、感染予防と経済・文化活動の両立を目指して検討が続けられています。

そんな中で、明るい話題として、米国のスペースx社が開発した新型船クルードラゴンに搭乗し、宇宙航空研究開発機構（JAXA（ジャクサ））の野口聡一（のぐちそういち）飛行士が、国際宇宙ステーションで3度目の宇宙滞在勤務をされています。今回は、日本から宇宙食としてお正月用の切り餅も用意されたそうです。今頃召し上がっていられるかもしれません。子どもたちに「宇宙の楽しさや面白さをみてほしい」とメッセージを送ってくださっています。

見附市では、昨年「見附まつり」が中止になりました。平成16年の7・13水害の時についで2回目の中止だそうです。今年は東京オリンピック開催時と同時期に行われる予定です。工夫をしながら大人も子どもも楽しめる「見附まつり」が盛大に開催されますことを願っています。

さて、見附市議会の活動といたしましては、昨年はコロナ禍の影響により冷え込んだ見附市の経済支援策を、市議会として市長に要望書を提出しました。また、2つの常任委員会と議会運営委員会の県外視察を中止し、その経費をコロナ対策に役立てていただきました。

そして、見附市議会は昨年11月に後半2年間の議会人事が新しい体制となりました。二元代表制のもと、行政をチェックする役目と市民の声を議会に届ける役目にまい進するとともに、熟議を重ねて合意形成を図り、市民の安心・安全と幸せの方向へ政治を前進させたいと決意しています。古き良き伝統は守りつつ、「議会基本条例の制定」や「ICT（アイシーティー）（情報通信技術）の推進」など時代に合った議会改革を引き続き進めてまいります。皆様に信頼され、愛される市議会を目指して頑張ります。

結びに、新型コロナウイルス感染症が一日も早く終息する事、災害の無い穏やかな年となる事、そして市民の皆様のご健康とお幸せを心よりお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

時代に合った議会改革を進め
市民の皆様から信頼・愛される市議会を目指す